

# 平成30年度 国有林野事業業務研究発表会

と き 平成30年11月29日（木）

ところ 農林水産省 第一会場：第3特別会議室（本館7階 ドアNo.714）

第二会場：共用第1会議室（本館7階 ドアNo.767）

【開 会 式】 第一会場 9:30～ 9:45

## 【各部門発表】

- ・ 森林技術部門 第一会場 10:00～15:25
- ・ 森林ふれあい部門 第二会場 10:00～12:10
- ・ 森林保全部門 第二会場 13:10～16:05

【特別発表】 第一会場 16:10～16:40  
「ICTを活用した業務効率化の取組について」

【講評・授賞式】 第一会場 17:00～18:00

## 【森林技術部門】 11課題



効率的な森林整備、先端技術の活用、治山工事での安全面等での工夫の取組等について

## 【森林ふれあい部門】 6課題



地域と連携した森づくり活動、自然休養林の利用推進の取組等について

## 【森林保全部門】 8課題



病虫獣害対策、希少な野生動植物の保護、防風林の機能向上の取組等について

## 【特別発表】

「ICTを活用した  
業務効率化の取組について」



## 平成30年度 国有林野事業業務研究発表会 発表課題一覧

【森林技術部門】

第一会場：農林水産省 本館7階 第3特別会議室

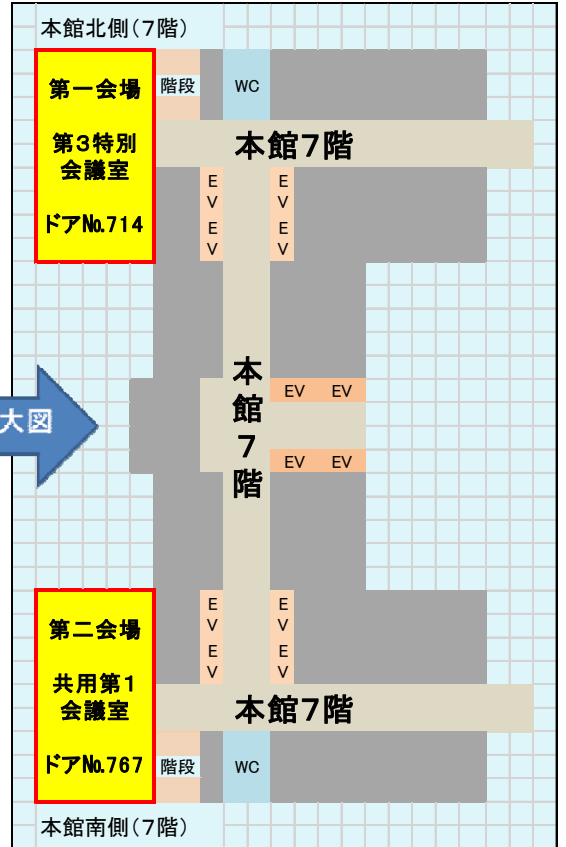
No.	発表時間	発表課題名	発表者			概要
			森林管理局	森林管理署等(元所属)	氏名	
1	10:00 ～ 10:20	繊維ロープを使用した集材研修会後の検証について	四国	四万十森林管理署	酒井 克馬 西村 知巳	グラッブルに単胴ウィンチを取り付けた単線地曳き集材が多い中で、ワイヤロープよりも軽く、労働負荷が軽減される繊維ロープでの集材研修会を平成27年度に実施した。その後の普及状況及び今後の課題等を発表する。
2	10:20 ～ 10:40	付属路の開設による効率的な生産事業への取組	中部	北信森林管理署	西方 雄一郎 長屋 憲明	平成29年度伐採・造林一貫作業箇所において、付属路開設による安全かつ効率的な生産事業実行への取組を行ったので、その結果を報告する。
3	10:40 ～ 11:00	造林の低コスト化に向けた取組について ～若手職員による下刈作業を省力化した造林地の検証～	関東	福島森林管理署白河支署	根本 翼 吉澤 竜耶 佐藤 さつき	現場経験が少ない若手職員自らが見識を深めるため、造林地の調査を行い、調査結果を元に下刈省略の可能性(林業の低コスト化)について検討したことから、その結果と今後の課題等について発表する。
【休憩 10分】 11:00 ～ 11:10						
4	11:10 ～ 11:30	害虫の選好性を利用した丸太の虫害を軽減する積積み方法	東北	津軽森林管理署金木支署	村野 宏樹	積積み丸太の虫害の軽減方法を探るため、各土場で害虫調査を実施した結果、一定の樹種及び場所に害虫が強く誘引される傾向が見られたことから、積積み方法の工夫による虫害軽減対策について検討した。
5	11:30 ～ 11:50	日高地域における搬出間伐(列状)の普及推進に向けた取組について	北海道	日高北部森林管理署 北海道 森林計画課	佐々木 颯 鳥居 宏臣	日高地方の一般民有林では搬出間伐の取組が低い状況にある。このことから、森林所有者に対して、列状による搬出間伐の推進に向けドローン等を活用した施業提案等の取組を実施したので発表する。
6	11:50 ～ 12:10	排水トンネル工事中に確認された破断面について ～現場から学んだ一考察～	東北	山形森林管理署最上支署	佐々木 尚 山田 悠貴	すべり面の解析等を行った上で排水トンネル工事を進めたところ、想定外の場所ですべり面が発生した。工事の安全確保と効率的・円滑な進行管理の観点から、チェックポイントの重要性について再認識した事例を報告する。
【昼休み 80分】 12:10 ～ 13:30						
7	13:30 ～ 13:50	北海道における低コスト再造林を目指した天然更新活用型作業方法とその効果の検証	北海道	森林技術・支援センター	山崎 孝一 谷村 亮	これまで道内では更新を阻害するササを除去する地表処理として地がきが天然林施業で多く用いられてきた。これを人工林主伐後に活用して低コストで効果的な更新技術とするため、その効果と導入条件について検証したので発表する。
8	13:50 ～ 14:10	航空レーザー測量データの国有林野事業での活用	九州	大分森林管理署	渡辺 行直 上村 徳光	現在、使用している基本図では、等高線に表現されない地形や、林道等の位置が正確に図示できていない場合もあり、路網検討や踏査等に支障となる場合がある。そこで、より忠実に地形を表現した等高線の作成等、航空レーザー測量データの活用を図る取組を行った。
9	14:10 ～ 14:30	国有林における無人航空機の計測的活用	中部	飛騨森林管理署	三谷 果穂 本間 文瑠	無人航空機(ドローン)による空撮画像からオルソ画像及び3Dモデルを作成し、単木の地理座標指定、樹冠占有面積の測定及び樹高測定への活用可能性を検証した。
【休憩 15分】 14:30 ～ 14:45						
10	14:45 ～ 15:05	主伐時から考える低コスト再造林への取組	近畿中国	広島北部森林管理署	早田 慎司	施業の低コスト化に向けて、伐採～造林一貫作業による早期植栽のメリットを最大限に活かすため、一貫作業実施林分において下層植生の調査を行い、伐区の設定など伐採時に行い得る工夫について考察を行ったので報告する。
11	15:05 ～ 15:25	会津流域における一貫作業システムの導入結果	関東	群馬森林管理署 (元 会津森林管理署)	小澤 一輝	主伐・再造林の低コスト化を図ることを目的として全国各地で導入されている一貫作業システムについて、会津流域においても導入し事業を行ったことから、その結果と今後の課題等について発表する。
【休憩 45分】 15:25 ～ 16:10						
特別発表	16:10 ～ 16:40	ICTを活用した業務効率化の取組について	四国	総務企画部 企画調整課 森林整備部 森林整備課	嶋崎 孝典 鷹野 孝司	今後、収穫量の増加や民有林支援の強化等に伴い業務量の増加が想定されることから、これまで以上に効率的な業務運営が不可欠となっている。このため、局・署で取り組んでいるICT(特にドローン)を活用した各種業務の効率化やその効果等について報告する。



《森林ふれあい部門》			第二会場：農林水産省 本館7階 共用第1会議室(午前)			
No	発表時間	発表課題名	発表者			概要
			森林管理局	森林管理署等(元所属)	氏名	
1	10:00 ～ 10:20	虹の松原保全・再生対策について (経過報告)	九州	佐賀森林管理署	日田 仁志 朝田 清子	佐賀森林管理署の虹の松原国有林の保全・再生計画の策定から11年を過ぎ、これまでの取組とレクリエーションの森の協定相手(虹の松原保護対策協議会)の事務局であるNPO法人が実施してきたボランティア活動の経過を発表する。
				虹の松原保護対策協議会 事務局 NPO法人唐津環境防災推進機構KANNE	藤田 和歌子	
2	10:20 ～ 10:40	自然休養林における利便性の向上、 情報発信の強化に向けて ～QRコードを活用した取組～	近畿中国	兵庫森林管理署	佐藤 開	「日本美しの森 お薦め国有林」に選定されている宝塚自然休養林において、QRコードを活用し、周辺地図、施設、景観ポイント等の情報提供を行い、自然休養林としての利便性や情報発信の強化を図る取組を行ったので報告する。
				国土交通省 保全課 (元 兵庫森林管理署)	中村 祐輔	
3	10:40 ～ 11:00	長野県軽井沢町における藪刈り作業 ～官と民、都市と農村、専門家と一般住民、世代を超えた交流・協働を目指して～	中部	東信森林管理署	関 諭	住宅地に隣接する国有林野内で、ツキノワグマによる被害を防ぐとともに、その保護を図るため、地域住民等により進めている緩衝地帯作りについて、その手法、取組経過等を報告する。
				軽井沢西地区国有林藪刈り実行委員会	打越 綾子	
【休憩 10分】 11:00 ～ 11:10						
4	11:10 ～ 11:30	平成29年度「鬼太鼓の森」再生プロジェクトの取組	関東	会津森林管理署 (元 下越森林管理署)	江川 未来	国民参加の森づくり活動の一環として、佐渡の伝統芸能「鬼太鼓」の継承に資することを目的に協定締結した「鬼太鼓の森」。課題解決に向け、平成28年度に職員で立ち上げた再生プロジェクトの取組内容を発表する。
				下越森林管理署	中島 千嘉	
5	11:30 ～ 11:50	ヤングフォレスター7始動 ～若い力で目指す地域林業活性化～	東北	三八上北森林管理署 (元 米代東部森林管理署)	大水 香澄	自治体林務担当者と署の若手職員が一体となり、交流や勉強を通じて地域林業の活性化を図ることを目的とした「ヤングフォレスター7」を立ち上げた。活動を通して得られた成果や課題等を報告する。
				米代東部森林管理署	大野 由美子	
				大館市 農林課	千葉 泰生	
6	11:50 ～ 12:10	森林官による地域活動について ～小田を任せ、小田に意気な～	四国	愛媛森林管理署	野村 祐樹	市町村合併で広域化した管轄区域において、希薄となった国有林の存在価値を再構築するために地域活動への積極的な参加等、地域住民との交流を通して、今後の地域での国有林の役割等を探る森林官の取組を発表する。
				森林整備部 資源活用課 (元 愛媛森林管理署)	水田 英司	
【昼休み 60分】 12:10 ～ 13:10						
《森林保全部門》			第二会場：農林水産省 本館7階 共用第1会議室(午後)			
No.	発表時間	発表課題名	発表者			概要
			森林管理局	森林管理署等(元所属)	氏名	
1	13:10 ～ 13:30	保護林における希少野生動植物種の保護管理について ～食草の増殖等～	近畿中国	奈良森林管理事務所	山村 実香	国の天然記念物及び希少野生動植物種に指定されているゴイソツバメシジミの生息環境整備のため、2003年から取り組んできた食草であるシシランの増殖技術に関する試験研究についてその成果を報告する。
				昆虫生態写真家	伊藤 ふくお	
2	13:30 ～ 13:50	松くい虫被害木調査におけるドローン調査と踏査の比較	東北	米代西部森林管理署	野村 祐紀 平川 春樹	松くい虫被害対策のための状況把握方法について、従来の踏査と新たにドローンによる調査を行い、それぞれの特徴を精度と労力の観点から比較し、今後の調査方法のあり方を検討した。
				空知森林管理署	佐原 菜摘 中鍵 貴之	
3	13:50 ～ 14:10	凸型林型化による防風林の機能向上 ～「おとなりさん」をたずねて、見えてきた課題と目指すべき方向～	北海道	空知森林管理署	佐原 菜摘 中鍵 貴之	空知森林管理署では老齢防風林の機能向上に向けた凸型林型化を進める中、防風林と共に暮らす農家等の「おとなりさん」をたずね、得られた声や知見を施業に活かしている。この防風林を介した農業と林業をつなぐ取組について発表する。
				屋久島森林生態系保全センター	渡邊 昭博 三國 卓裕	
4	14:10 ～ 14:30	動物の五感のうち、味覚・嗅覚・聴覚・視覚の四感を複合した、ヤクシカの誘引手法等の検討について	九州	屋久島森林生態系保全センター	渡邊 昭博 三國 卓裕	ヤクシカの頭数管理を行う上で、動物の五感の内、味覚・嗅覚・聴覚・視覚の四感を複合した効果的な誘引手法の検証や、シカ忌避物質の検証、スレジカの発生要因等について、検証試験を行ったので報告する。
				安芸森林管理署	武市 泰典 小杉 陵太	
【休憩 15分】 14:30 ～ 14:45						
5	14:45 ～ 15:05	くくり罠を用いたシカの効率的な捕獲方法の検証	四国	安芸森林管理署	武市 泰典 小杉 陵太	造林地のシカ被害対策として、シカネット等による保護手段に加えて、囲い罠等による捕獲を行っている中、個体数調整の手段の一つである「くくり罠」に着目し、森林事務所で行った「くくり罠」による効率的な捕獲方法等を発表する。
				岐阜森林管理署	小原 弘明 日吉 晶子	
6	15:05 ～ 15:25	岐阜森林管理署のニホンジカ対策 ～職員の意識向上と職員捕獲への取組～	中部	岐阜森林管理署	小原 弘明 日吉 晶子	平成28年度から新たな獣害対策への取組として、地域と連携した効率的な捕獲を目指し、職員による目撃情報の集約やセンサーカメラを活用した職員捕獲の実施について概要を報告する。
				日高南部森林管理署	後藤 正等 坂口 拓	
7	15:25 ～ 15:45	エゾシカ捕獲事業実施から3年目を迎え ～捕獲事業の経過と課題～	北海道	日高南部森林管理署	後藤 正等 坂口 拓	国有林におけるエゾシカ対策の検討及びエゾシカ捕獲手法の実証を目的として、日高南部森林管理署ではエゾシカの捕獲事業を実施しており、今までの捕獲事業の取組の経過と今後への課題を考察したので発表する。
				山梨森林管理事務所 (元 会津森林管理署南会津支署)	福島 大樹	
8	15:45 ～ 16:05	大江湿原におけるシカ対策 ～地元有志によるシカ柵延長の取組～	関東	山梨森林管理事務所 (元 会津森林管理署南会津支署)	福島 大樹	大江湿原では、ニホンジカによるニッコウキスゲ等の被食被害が拡大したことから、関係機関と連携協力し、シカ柵による保全に取り組んでいる。本発表では、これまでの振り返りと将来的な保全に向けた課題について報告する。

《農林水産省 案内図》 地下鉄霞ヶ関駅をご利用ください。

《本館7階 会場詳細図》



【× モ】